

# ホンダ技研

# HONDA

## 会社概要

本田技研工業（Honda Motor co., Ltd.; 以下「本田技研」と表記）は、世界最大のオートバイメーカーであり、エンジンメーカーであり、かつ世界有数の自動車メーカーでもある。同社は全世界に437社の子会社と関連会社を擁している。日本国外の生産工場は28カ国127カ所におよび、オートバイ、自動車、動力製品を生産している。2005年－2006年の純売上高は877億ドルであった。

ホンダは、小型汎用エンジン、スクーターから、特色あるスポーツカーに至るまで、幅広い製品を開発、製造、販売している。

## インドにおけるホンダ

ホンダのインドでの事業展開は、以下の子会社と合弁会社を通じて行われている。

### ホンダ・モーターサイクル&スクーター・インド

ホンダ・モーターサイクル&スクーター・インド（Honda Motorcycle & Scooter India Pvt. Ltd. - HMSI）は、本田技研の全額出資の子会社として1999年に設立された。同社はインドにおいてオートバイとスクーターの製造・販売をしている。同社の生産工場はグルガオンの近くにあり、年間生産台数は75万台である。



## ホンダR&Dインド

ホンダ R&D インド (Honda R&D India Private Limited) は、株式会社本田技術研究所 (Honda R&D Co., Ltd.) の全額出資子会社である。同社の事業内容は、オートバイと動力製品の研究開発である。

## ホンダ・シエル・カー・インド

ホンダ・シエル・カー・インド (Honda Siel Cars India Ltd. - HSCI) は、本田技研とシエル (Siel Limited) の合弁会社で、1995年に設立された。インド市場向けにホンダ・ブランドの乗用車を生産している。同社の製品ラインナップには、ホンダ・シティ、ホンダCRV、ホンダ・アコードがある。ノイダ首都圏に生産工場を置き、年間生産台数は5万台である。

## ホンダ・トレーディング・インド

ホンダ・トレーディング・インド (Honda Trading corporation India Private Ltd.) は、本田技研の全額出資の子会社である。

同社の業務内容は、多種多様な商品や日用品の輸入である。また、ホンダの関連会社に対し、市場調査、マーケティング活動、その他関連分野におけるサポートサービスを提供している。

## タタ・ユタカ・オートコンプ・プライベート

タタ・ユタカ・オートコンプ (TATA Yutaka Autocomp Private Limited) は、排気システムやブレーキディスクなど、多岐にわたる自動車部品を製造している。タタ・オートコンプ・システム (Tata AutoComp Systems) とユタカ技研 (本田技研の子会社) との50:50の合弁会社である同社は、プネに生産工場を置く。主要取引先は、ヒーロー・ホンダ、ヒーロー・シエル・カー、ホンダ・モーターサイクル&スクーター、タタ・モーターズである。

## ホンダ・シエル・パワー・プロダクツ

ホンダ・シエル・パワー・プロダクツ (Honda Siel Power Products Ltd.) は、本田技研とインドのシエルとの合弁会社で、本田技研の持株比率は67%である。1985年に設立された同社は、現在900人以上の従業員を抱え、ポータブル発電機、ポータブル・エンジン、動力噴霧機、芝刈り機、ポータブル揚水セットを生産している。

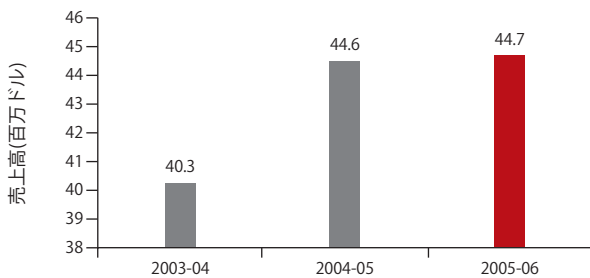
同社は、ウッタランチャル、ポンディシェリ、ウッタルプラデシュの各州に生産工場があり、年間生産台数は17万5,000台となっている。





同社の2005年－2006年の純売上高は4,470万ドルで、2004年から2006年の間には5%の年平均成長率を記録している。

ホンダ・シエル・パワー・プロダクツの過去3年間の売上高 (百万ドル)



出所：Bloomberg

## ヒーロー・ホンダ・モーターズ

ヒーロー・ホンダ・モーターズ (Hero Honda Motors Limited) は、インドでオートバイやスペアパーツを製造・販売している世界最大のオートバイ

### ヒーロー・ホンダ・モーターズ：拡大の歴史

年	内容
1984-1990	<ul style="list-style-type: none"> <li>本田技研との業務提携契約を締結し、現地法人を設立</li> <li>エンジン工場が稼働開始</li> <li>モバイルサービスワークショップを開始</li> </ul>
1991-1995	<ul style="list-style-type: none"> <li>日産800台のオートバイ生産を開始</li> </ul>
1995-2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダルヘラ工場の環境管理システムが、DNVオランダの審査を受けてISO14001を取得</li> <li>生産台数300万台を達成</li> </ul>

出所:ホンダ・シエル・ウェブサイト

メーカーである。1984年にインドのヒーローグループと日本の本田技研の合併会社として誕生して以来、同社は、その存在をインド中に拡大してきた。ヒーローグループと本田技研は、上場企業であるヒーロー・ホンダ・モーターズの株式をそれぞれ26%ずつ保有している。本田技研は1984年にヒーローグループと10年間の提携契約を締結したが、その契約はさらに10年間の契約期間で2004年に更新された。

ヒーロー・ホンダ・モーターズの従業員は約4,000名。同社は2005年には290万台を超える二輪車を生産した。

同社はダルヘラとグルガオンに1カ所ずつ工場を有している。この数年で同社の販売台数は急速に成長した。販売台数も、1985年－1986年の販売台数は4万3,000台だったのに対し、2004年－2005年は260万台と急増している。2006年1月、同社はスクーター部門への業務拡張を目指して、ギアレス・ス

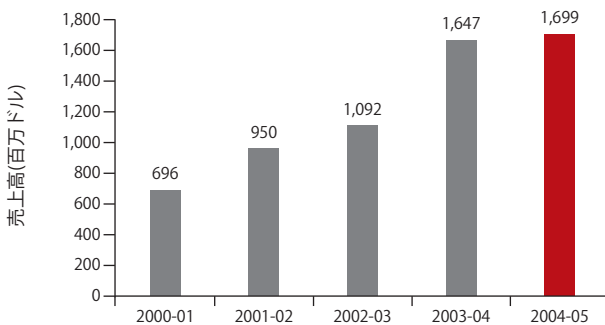


クーターを発売した。

また同社では、オートバイの輸出も行っている。相手国（地域）は主にスリランカ、バングラデシュ、ラテンアメリカである。2005年－2006年にかけ、ヒーロー・ホンダは9万2,600台のオートバイを輸出した。

2004年－2005年のヒーロー・ホンダの売上高は16億9,900万ドルであった。

同社の売上高は、2000年－2001年には6億9,600  
**ヒーロー・ホンダの売上高5年間の推移（百万ドル）**



出所：会社ウェブサイト

万ドルであったが、2004年－2005年は16億9,900万ドルに増加し、年平均成長率は24.99%となっている。さらに、税引後利益は2000年－2001年の5,384万ドルから、2004年－2005年には1億8,192万ドルに増加している。



## 成功の要因

### 進歩を続ける技術と、本田技研からのサポート

本田技研は、ヒーロー・ホンダとの業務提携契約を更新した。本田技研は同社に対し、過去20年間にわたって最新テクノロジーを提供し続けている。これにより同社は世界最高レベルの企業に肩を並べることができる。インドの研究開発施設を強化した本田技研は、今後もヒーロー・ホンダに技術サポートを提供していく。

### ディーラー網

同社がインドで成功している主な要因は、強力なディーラー網と信頼できるアフターサービスである。これにより同社は顧客数を拡大し、より良いサービスを提供できるようになった。さらに、販売店、関連業者、およびベンダーから成る効率的なサプライチェーンを確保している。結果としてコストが削減され、収益が増大した。そんな中、HMSIとMSCIは、二輪・四輪市場における主幹業務のディーラー満足度でそれぞれ最高位にランクされた。

### 幅広い製品群と新モデル

ヒーロー・ホンダは、顧客ニーズとトレンドの変化に沿ったモデル革新を続けている。2008年までの製品戦略はすでに確立しており、一部のモデルは開発段階に入っている。本田技研は、新製品に対する十分な技術サポートと継続的な支援を約束している。

## 今後の計画

### 生産能力の拡大計画

ヒーロー・ホンダは既存の生産ラインを拡張するとともに、年間生産台数45万台の新しい工場も建設する予定である。同社は、オートバイの年間生産台数を2007年までに520万台に拡大することを目指している。

### R&Dへの注力

電力需要が高まるインドでは、発電機市場の成長が著しい。さらに、インド政府の決定により、ディーゼル発電機メーカーは大気汚染防止および騒音防止規制に準拠する必要がある。こうした取り決めはホンダ・シエルに有利に働くと予想されている。それは、許認可を受けていない地元メーカーにはこうした規制に準拠するために必要な能力を持っていないからである。同社は新しいエンジンの製品開発や技術開発に取り組んでおり、発電機、揚水機、噴霧器に使用されるエンジンでLPGを使用する技術の研究開発も行っている。

### スクーター部門におけるシェアの拡大

同社は、ギアレス・スクーターである「プレジャー」の発売後、多数の新モデルを発売する計画を発表した。同社は2006年12月までに10万台のスクーターを販売する予定である。

### 輸出の拡大

ヒーロー・ホンダと本田技研では輸出関連の契約を締結する予定である。これにより、同社は欧州市場にオートバイを輸出できるようになる。

**It's the Honda in it that makes it a Hero.**

Behind the Hero Honda CD 100 is Honda's worldwide motorcycle leadership. Leadership born of the highest standards of design and engineering excellence.

**The 4-stroke advantage.**  
Honda's technical leadership is evident in every aspect of the Hero Honda CD 100's 4-stroke engine. Complete fuel combustion ensures ease of maintenance, the governmental 95 km liter fuel efficiency, apart from the clean, pollution free exhaust. For kilometer after kilometer of trouble free service.

**Our favourite performance figure, though, is the habits of happy owners. Who make the Hero Honda CD 100 India's largest-selling bike.**

**HERO HONDA**

Always Road thing Hero!